

小金井市立はけの森美術館運営協議会

会議録（第2回）

平成18年9月6日（水）開催

第2回小金井市立はけの森美術館運営協議会

- 日 時 平成18年9月6日(水)
午後7時から午後7時35分まで
- 場 所 前原暫定集会施設 A会議室
- 内 容 1 諮問事項
企画展(中村研一回顧展)の開催に伴う観覧料について
2 その他
- 出席者 稲葉小金井市長
鉄矢会長、宮村副会長、淀井委員、千村委員、富士道委員、小柳委員、薩摩学芸顧問、横田学芸員
事務局(渡邊、鈴木、山田)

(鉄矢会長)

本日は、10月7日から11月26日まで開催されます企画展(中村研一回顧展)の観覧料につきまして市長から諮問がございますのでよろしくお願いたします。

(稲葉市長)

小金井市立はけの森美術館運営協議会会長鉄矢悦朗様、企画展(中村研一回顧展)の開催に伴う観覧料について(諮問)はけの森美術館企画展としまして中村研一回顧展を10月7日から11月26日まで開催する予定ですが、その際の観覧料につきましては小金井市立はけの森美術館条例第8条第2項の規定では市長は1,000円を超えない範囲内においてその都度観覧料を定めることができるとなっております。

つきましては、小金井市立はけの森美術館条例第12条第2項の規定に基づきまして、貴協議会の意見をお示し願います。

記

【諮問事項】

- 1 企画展(中村研一回顧展)の開催に伴う観覧料について
以上でございます。よろしくお願いたします。

(鉄矢会長)

市長は、この後、公務のため退席させていただきますのでよろしくお願いたします。

(稲葉市長)

すみません。今日の企画展の観覧料のことにつきましては後日担当から報告を受けます。

(鉄矢会長)

それでは、ただ今から市長から諮問がありました諮問書の写しを事務局から各委員に配布していただきたいと思えます。

はじめに、お手元に配布しております資料の確認をお願いしていただきたいと存じます。中村研一回顧展企画概要2枚、その次に他館企画展チラシ等が付いております。

事務局から説明がありましたらお願いたします。

(横田学芸員)

この度の中村研一回顧展につきまして、概要等を説明させていただきます

たいと思います。お手元の企画概要をご覧ください。中村研一回顧展は、10月7日から11月26日に期間を持ちまして開催させていただきたいと思います。内容につきましては、中村研一の作品を から つきまして当館の基本コレクションとなりますので、まず美術館としての基本コレクションを大切にするという意思とご遺族に対するお礼の気持ちを兼ねまして一番最初の企画展といたしまして回顧展を開催させていただきたいと思っています。開催の内容としましては、中村研一が画家として出発をしました東京美術学校（現在の東京藝術大学）卒業から晩年になるまでを合計30点他館からも借り受けまして実施したいと思っています。企画は、4つのパートに分けて最初の美術学校を卒業してからパリに行くまで二番目にはパリに行っている滞欧中から戦前までの作品そして三番目は、戦争画の時代そして四番目に戦後から晩年亡くなるまでの4つのパートに分けて考えております。

この4つのパートについて区切りまして中村研一の画風がどのように変遷してきたのかを時代とあわせて観ていただきたい。わかりやすくパネル等の充実をさせて展示していきたいと思っています。

2枚目の資料をご覧ください。こちらは、回顧展について予定している作品でございます。合計30点なんですけれどもその内の6点は東京近郊の美術館から借り受けています。あと1点、個人で出していただくように交渉してきました。

これらの30点中6点が外からの借り受けの作品で、この展覧会を構成しております。

次の資料有島生馬と一水会という資料なんですけれどもこれはこの展覧会を開催するに当たってだいたいどれ位の金額が妥当であるのか皆様にご審議していただくために当美術館と大体基本的に似ている所、公立美術館であることそして内容としても日本の画家で自分のところもコレクションどおり自ら少し借り受けてきた形でやっているものを探しています。

板橋区立美術館の展覧会が当市の美術館と規模が似ているのでこの金額というのが参考にしていただくには妥当かなと思っています。この佐藤太清回顧展のほか板橋区立美術館は駅からちょっと離れた場所にありはけの森美術館と比較的近い環境でございます。展覧会の展示場の面積としましては、約300㎡を切るような形になっております。こ

の展覧会は作品点数が44点あと10点位を合わせて展示するような形になっております。

はけの森美術館の場合は、1階の面積と2階の面積を合わせて約250㎡、作品件数は、1階の展示室で30点、2階の展示室で20点強の祖業を出す予定でございます。

現在30点のうち5件をよそから借りて戦争画が2点ほどございまして、大きなものもあります。30点ぐらいの内容プラス20点ぐらいの祖業合計50点ぐらいの件数、美術館面積としては250㎡同じような地元の作家さんの展覧会回顧展という形で600円の入館料になっており、この中村研一回顧展を開催するに当たっての非常に参考になる資料ではないかと美術館側では考えております。

その次のページなんですけれども、府中美術館これは、可能な助成金が入っていることと大体的に広まっている中で規模としては抑えた形ですが、800円。あと後ろのほうで都立文化施設をいくつか引いておりますが、開催されるようでしたら1,300円位。市立美術館の場合は、市長も申し上げたとおり1,000円以内ということで設定しておりますので、値段も常設200円ですので、その3倍位が妥当な数字なのかなと美術館側では考えております。

(鉄矢会長)

ありがとうございます。今、横田学芸員から話があったように様々な金額の比較の資料も含まれているということです。

これより、委員の皆さんのご意見を伺いたいと思います。

(淀井委員)

今、ご説明を伺って妥当と思っております。中村研一の展覧会は前から開催されてはいますが、新しく借りて近代美術館や上野の美術館から新しく借りて来るそうで面白くなるのかと思います。金額については、いい線であると思います。

(千村委員)

今日の話合いの大体の予告を見まして観覧料というのは、難しいなどうやって決めるのかなと根拠とか考える基になるものが無かったので何か案が出たらそれに賛成とか反対とかすればいいんだなという気持ちで来ました。何か子どもたちのイベントを時々するのですが、その時の費用というのがすごく集客というか参加にすごく影響するので、いく

らなら来るけどいくらなら来ないみたいのがあって、決める時に本当に躊躇して決めるのですがうまくいったりいかなかったりするんです。その時にお母さんたちに聞くとその行った金額なりのものが見返りというかわたしの場合は主に工作教室ですが、「その持って帰るものがその金額のものであればいいと思います。」というようなことを言われます。

この展覧会の場合、今まで先生も言われたように展覧会はやっていらっしやるわけで、今回やるのはこういう意図があるんだよというそういうところを大きくアピールするというか何か方法で少し変化をつけて特に感じたのはこの間戦争画というものがどこに行ってしまったのか大量にいい作品があるのにどこにあるんだろうという疑問から始まって戦争画を尋ねて行った番組を見ていたのですが、最後の方に中村研一のすばらしい大きな作品がコタ・バル B という作品かと思ったんですがこんなふうに戦争画について意見や疑問があるのですが作品事態の芸術性というのはすばらしいものがあるというような開設をしていたので、そういった中村研一の戦争画の取り組みみたいなのも入れながら解説のところでアピールするようなものを企画されてまた宣伝のときもそういう形でしていったら絵は見たことがあったにせよ意図というものが少し変わっていくのかなと思います。金額については、本当に難しいなと思うんですが他の美術館の金額を見ますと妥当かなと思います。

(富士道委員)

先に、2つばかり質問させていただいてよろしいでしょうか。1つは、今回企画をされているんですが、この間の集客といいますか実際にらっしやる方どのくらい想定されているのかなということが1つです。それからもう1つは、他館なり個人像のものをお借りする例えば金銭的な形で費用はかかるのかどうか。

(横田学芸員)

集客の人数につきましては、今すぐご回答申し上げるのは難しい状態にございますので学芸の方ではお答えできませんが、もう1つ私の学芸員としてお話できるのは、2番目の問題でございますが、公立美術館である場合美術館どうしでは貸し借りというのは原則として無料になっております。ただ、貴重な作品でございますので、輸送や備品に関しましては当然美術の作品を専門に輸送する業者が入りまた貸し出した先

で警備がつき空調等整った状態ですべての設備が整っている状態のもとで無料で貸し出しをする形になっています。あと個人につきましては、企画内容等説明しましてお話申し上げたところ快く無料で貸し出していただいております。

集客は年間2,500人を見込んでいますけれどもその内展覧会1階についてどれくらいの割合かという計算は今出しておりません。

(富士道委員)

この期間のどれくらいの人を集めるかという目標なので、それを達成するためには費用を高すぎれば当然いらっしやらないし、とって様々な経費がかかることを考えたときに常設通常の値段を徐々に上げながら特別企画をいまやっているんですよという違いをつける価格設定をすることが必要なんだろうと思っています。

先ほどのお話の中で、私もこういう内容でありまた規模であるとかのことを勘案しますと板橋区美術館の金額が妥当な1つの線ではないかなと感想は持っております。

(宮村副会長)

私も今お話を聞いてますと、600円、小中学生300円の観覧料でいいと思います。

できたら、例えば土曜日は小中学生を無料にするとかたくさんの人達に見てもらおうということができればいいのではないかなと思っています。

観覧料とは違いますが、友達のお母さん方にも「はけの森美術館知っている」なんてこの間話をしてみたんですけども、「どこのあるの」とか「知らない」という方が多かったのでじゃうずにアピールできるものがあればそんなにお金を使わないで何かアピールできるものがあればみなさんにもっと浸透するかなという感じです。

(鉄矢会長)

各委員から発言をいただきました。

私もまだ、判断材料が少ないことを踏まえながらも、都心から離れた所に規模と同じくらいの内容ということや始まったばかりの美術館ですから、逆に高いと思われぬような価格設定はよくないと思っています。なので、妥当な線ではないかと思っています。

宮村委員からたくさんの子どもの子どもたちに見てもらえるような工夫を少

し考えてほしいと要望があったことを確認させていただきます。

金額については、事務局の提案どおり企画展（中村研一回顧展）の観覧料につきましては、一般600円、小中学生300円に決定したいと思いますがご異議ございませんか。

「異議なし」と返事する者あり。

ご異議なしと認めます。

企画展（中村研一回顧展）の観覧料につきましては、今決まったとおり市長に答申いたします。

本日は、以上で議題は終了いたしますが、その他何かございましたらお願いいたします。

（事務局渡邊）

第1回運営協議会の会議録が、まだ未定稿でありますので、各委員ご自分の発言箇所ですら誤字・脱字がございましたら、9月20までに連絡をお願いいたします。以上よろしくをお願いいたします。

また、次回の運営協議会を10月3日午後6時から予定しておりますので、ご予約に入れていただきたいと思います。

なお、第1回運営協議会の委員報酬につきましては、皆様からの口座情報が整いましたので、近日中に入金いたしますのでご了承ください。

（千村委員）

観覧料は決まったんですが、要望みたいな気持ちを述べたいと思います。

例えば、板橋美術館は、小金井からはとっても遠いが何かおもしろそうだといえは出かけていったりするわけです。ですから、小金井の人だけではなく遠くから来る人も行ってみようかなというようなアピールがとても大事だと思っています。

先ほど学芸員さんが言われたように、この美術館は中村研一さんの作品を基にしてそこから出来てきたものであるから、それを記念し尊重して展覧会をするというその部分もしっかりやるということなどもアピールしたり、作品展の内容で分かれているいくつかのポイントを歴史的なことを含めてただ絵だけを見て上手だとか面白いとか色がきれいだとかではなく歴史的に中村研一がかかわってきたり取り組んできた状況がパネルでわかりやすく展示してあるということがいいと思います。

中学生が読んでもわかるような書き方であればいいなと思います。

(淀井委員)

中村研一回顧展を実施するのは、一生の仕事をみるわけです。例えば戦争中の作品コタ・バルBというものを何気なく見せるというのも難しいと思うし、ここを妙に取り上げるというのも難しい。どんなふうに展開していくのでしょうか。子どもさんや中学生から立ち入って戦争画についての質問が出てきた時はどんな程度にお答えになるのでしょうか。

(横田学芸員)

戦争画についてそこだけを突起して展覧会を考えてはいなくてあくまで中村研一の画業を全部振り返った時にはずすことは絶対にできないので、この中に入れておきまして、戦争画のところで特別に質問があったらそこだけを特別にご説明していくという形ではなく普通になるのかなと考えています。

(淀井委員)

国立近代美術館などでも戦争画というのは、今までほとんど出品されず、最近になって出てきたわけですがけれどもどのように位置づけるのですか。

(横田学芸員)

事実として戦争というものがあり、絵画を描いたというそういう事実がどうしても動かせないものですので、その事実としての戦争画、描いた作品それ自体について話すことはできてもそれ以上のことをどこまで言うのかその時どういう対応をするのかはその子どもに合わせて子どもがどの位戦争に対して知識を持っているのかそういったことによっても変わってくると思います。

(千村委員)

ただ、子どもたちは、中村研一の戦争の絵を見ると中村研一だけが描いたかというように思ったりする子もあると思うんですね。同時代に有名な画家たちがみんな子どもたちも知っている有名な画家たちが本当にたくさん取り組んでそういう時代を生きてきたという背景みたいなものがあつたら特質中村研一だけが描いたのだということにはならないと思いますし、他のケースでは奥様や兄弟に語らせているのですが、その戦争画を描くにあたっての心のうちを語っているような苦悩や努力やその作品についての思いを言っていました。中村研一の奥様は、今そういうことが語る状況なのかなと思います、取り組んでいた頃の思い

みないなものをお聞きするみたいなことがあったのでしょうか。

(横田学芸員)

調査中にお話をする機会はございましたが、中村研一自身が奥様に対して作品について話すことはほとんどなかったそうなんです。

なので、戦争画だけではなくて他の作品についても一切なかったと。ですから、関連する資料の中から中村研一がその作品について何か語っているところがないかというところを引いてはいるのですけれどもそれもなかなかないような状況です。

(薩摩学芸顧問)

戦争画の問題に関しては、3点ほど説明させていただきます。

まず、今の子どもたちというのは大学生うちの大学で学生を見てみると今の若い子どもたちがかつての太平洋戦争、第二次世界大戦というものを我々が心配する程の見方で突っ込んでくるということはあまりないと思います。率直に反応してくると思いますので、変に我々がかまえないほうがいいのではないかと考えております。それが1点です。

それから、むしろ年配の方で戦争画が問題ではないかという発言が出てきた場合、我々の方の立場ですとかなりこの時代のものを客観的に評価するという作業が進んでおまして、単純に申しますと、例えば戦前における日露戦争とか北朝鮮とか満州こちらの大規模な建築が公共建築の存在になっていけば戦後の育て上げた建築とはこのように早く展開しなかったと思います。

あるいは、戦争記録映画があの手法がなければ、黒沢明の映画というのはなかったと思います。そういう点から言いますと戦争画というのは、ある程度の画面の中にある程度の人数を描き込んで落とすのは画家の構図で絵を描くという意味で1つの意義を持つ絵画です。そういうことは、我々のほうで必要になったら説明していく必要があるなと考えております。

それからもう1つ、戦争画が皆様ご存知ないとすれば知識として共有していただきたいのですけれども、これが出てこなかった理由は、もと東京空美術館にありましてそれが終戦後アメリカに没収されましてそして現在東京国立近代美術館に永久貸与されているものでアメリカに所有権があり、日本に所有権がない作品だということで近代美術館が非常に神経を尖らせてということだったのですけれどもやはりさすがに

20世紀というものが歴史の中に入ってきたという時代に全体的にイデオロギー的な意味で必要がないということで展覧会に出てくるようになったという背景があるということは共通の認識として見ていただきたいと思っております。以上3点です。

(鉄矢会長)

本日は、これもちまして運営協議会を終了させていただきます。